

第5・6学年 総合的な学習の時間 指導案

児童数 10名

授業者 教諭 林 一学

1 単元名 伝えよう 灘浦のすばらしさ

2 単元について

本校の校区内には、大境洞窟遺跡や小境の朝日神社社叢、中田の道神社拝殿、虻が島、長坂の大イヌクス等の国指定・県指定文化財が数多く存在し、歴史的・文化的に恵まれた環境にある。さらに、日本農業遺産に認定された定置網漁業や民宿発祥の地としても知られている。加えて、能越自動車道のインターチェンジが近く、目の前には小境海岸CCZがあることから、夏季には多くの観光客が訪れる地域でもある。一方で、2024年の震災以前から人口減少が進んでおり、本校の児童数も年々減少している。豊かな自然や文化、人々の営みは、子供たちにとって日常の風景であり「当たり前にあるもの」として存在しているが、決して変わらず残り続けるものではなくなっているのが現状である。

本学級の子供たちは、教育活動等を通して、地域の豊かな自然や文化、人々と関わる機会に恵まれており、「灘浦のすばらしさ」を感じながら育ってきている。そのため、灘浦地区に対して誇りや愛着をもっている子供が多い。本校ではこれまで、地域の魅力を紹介するDVDを作成して他校へ配付したり、道の駅で灘浦みかんの販売活動を行ったりするなど、地域の魅力を発信する活動に取り組んできた。本学級の子供たちも、その活動の様子を知っており、地域の魅力を発信する学習に対してイメージをもっている。そのイメージを生かし、「どのようにしたら、灘浦のすばらしさをより多くの人に伝えることができるのか」という問いをもちながら学習を進めていく。

本単元では、「伝えよう 灘浦のすばらしさ」をテーマに学習を進める。子供たちはこれまで、灘浦地区の歴史や文化、産業等について、調べ学習や体験活動を通して学習してきた。そこで、単元の前半では、特産物や豊かな自然に着目し、自ら課題を設定して、調べ学習や棚田での田植え、灘浦みかんの摘果等の体験活動を通して理解を深める。さらに、その過程で生まれた疑問や関心から新たな課題を見だし、自分なりの課題を設定して調査や体験を行うという、スパイラル的な探究活動を展開していく。単元の後半では、自分たちが調べてきた灘浦のよさを、どのように伝えていくのかについて考える。様々な活動を通して、地域への愛着や誇りを育むとともに、ふるさと灘浦の未来について考えられるようにしたい。そのために、まず、自分自身と地域との関わりについて見つめ直し、地域の魅力を伝えることへの目的意識を高めるとともに、地域を守り支えている人々の思いや願いにも目を向けさせたい。子供たちはこれまでも、道徳科「美しい夢ーゆめぴりかー」や「ひとふみ十年」の学習を通して、米作りに関わる人々の思いや「自然と開発」といったテーマについて考えてきた。そこで、これまでの学習を生かしながら、「地域のよさを多くの人に知ってもらうことで何が生まれるのか」「もし伝えなければどうなるのか」といった視点から考えることで、地域の魅力を発信する意義についても深く考えることができるようにしたい。そして、これらの学習を通して友達と協働して学ぶことのよさや主体的に探究する楽しさを味わい、ふるさと灘浦への誇りと愛着をもてるようにしていきたい。

3 単元の目標

灘浦地区のすばらしさを伝える活動を通して、地域の活性化や文化の伝承に従事する人々の努力や願いを理解し、課題解決に向けた方法を考え、見通しをもって活動するとともに、灘浦地区の未来のために、自分にできることを考えながら進んで地域に関わろうとする態度を養うことができるようにする。

4 単元の評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①灘浦地区の活性化や文化の伝承のために従事する人々の努力や思いを理解している。 ②調べ学習や体験活動、インタビューで得た情報を比較・分類、関連付けながら、探究の過程に応じた技能を身に付けている。	①課題を探究するための方法や手順を考え、調べ学習や体験活動、インタビューで得た情報を適切に選択し、見通しをもって活動している。 ②相手や目的に応じて、伝えたいことを効果的に表現している。	①目標を立て、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ②友達と協働する中で、互いの見方や考え方の違いを認め合い、自分の考えを広めたり深めたりしようとしている。 ③よりよい地域にするために自分にできることを見付け、進んで地域に関わろうとしている。

5 研究主題との関連

視点1 課題設定の工夫

① 子供が自ら解決したいと思える学習課題の設定

灘浦地区を支え、その魅力を守り、盛り上げようと日々尽力している生産者や地域の方々をゲストティーチャーとして招いたり、現地に赴いて直接話を聞いたりする機会を設定する。地域の方々が活動の中で感じている苦勞や喜び、これからの灘浦への思いに触れることで、地域の人々の生き方や願いに共感し、地域のために自分たちに何ができるか考え、地域の課題を自分事として捉えられるようにする。

このように、地域の方々との関わりから生まれた思いや疑問を基に、誰に、何のために発信するのかを考えることを通して、発信する意義や必然性を子供たち自身が見いだせるようにする。そうすることで、調べた情報をまとめるだけの学習だけではなく、子供自身が「解決したい」と思える課題を設定し、主体的に探究する姿勢を育てたい。

② 自己調整しながら学習を進めるための学びのゴールの設定

子供たちは、単元の導入時に「灘浦のすばらしさを伝えるには、もっと地域のことを知る必要がある」と考え、「灘浦みかん」または「長坂の棚田」のいずれかを選択し、「調べ学習-体験学習-まとめ-共有-課題設定」という探究の過程を繰り返してきた。この過程で、他の地域との比較を通して灘浦地区の特色に気付くなど、地域のよさへの理解を深めてきている。

次のステップでは「自分たちが調べ、体験した灘浦のよさを、どのようにすれば多くの人に伝えることができるか」を考える。2学期に予定しているひみ番屋街での販売活動や、3学期に行う「学びフェスタ」は、これまでの調べ学習や体験学習で得た学びを生かし、灘浦のすばらしさを発信する具体的な場となる。そこで、「誰に、何を、どのように伝えるのか」を考えながら活動することで、伝える相手や目的によって必要な情報や伝え方が異なることに気付けるようにしていく。そして、「伝えよう 灘浦のすばらしさ」という学びのゴールに近付くために、「今の学習や活動でよいか」を常に振り返ることで、学習の進め

方や活動内容を見直し、自らの学びを調整しながら探究を深めていけるようにしたい。

視点2 効果的な学び合いの工夫

① 考えをつないだり深めたりするためのICTの活用

子供同士の考えを「つなぎ」、思考を「深める」ための道具として、プレゼンテーションソフト、協働学習ツール、デジタルホワイトボード等のICTを活用し、子供一人一人の調べた情報や体験を通して得た気づき、考えを可視化して共有できるようにする。

<ICTの活用例>

活用するICTツール	活用する場面	期待される効果
プレゼンテーションソフト	情報のメモ、調べ学習のまとめ等を行う場面	・「学び」を蓄積し、いつでも振り返ることができるようにすることで、自分の学びがどのように深まってきたのかを実感できる。 ・その後のまとめや発表等の表現活動に活用しやすい。
デジタルホワイトボード	個々で調べたり、体験して学んだりした情報を全体で共有し整理する場面	・友達の付箋を見ながら比較したり、友達の考えと自分の考えを結び付けたりすることで、より多面的に考え、自分の考えを深められるようにする。そして、新たな問いを生み出し、次の調べ学習や体験活動につなげることができる。
協働学習ツール	保存しておいた地域の写真や資料、調べてきた情報を、自由に利用し、自分のプレゼンテーションに生かす場面	・発表やまとめの際に、伝えたい相手や内容に合わせて必要な情報や表現方法を主体的に選択し、編集することができる。 ・友達の作成したものを参考にすることで、自分のプレゼンテーションを見直し、生かすことができる。

ICTを単なる発表のための道具として使うだけではなく、友達と考えを共有・比較し、自分の考えを見直し、次の学びへとつなげるための道具として位置付けることで、子供同士の学び合いを促し、一人一人が学びを自己調整しながら探究を深められるようにしていきたい。

② 友達との関わり合いを通して学びを深めるための教師の支援

本学級の子供たちは、これまでの学校生活を通して、互いを信頼し合い、助け合う温かな人間関係を築いている。そこで、ペアやグループでの活動を積極的に取り入れたり、ICTの共有機能を活用して協働的に学ぶ時間を設定したりすることで、友達との関わりを通して自分の考えを広げたり深めたりしながら、主体的に課題を探究できるようにする。一方で、課題解決において友達の意見に頼りがちな姿も見られる。そこで、交流の前に自分の考えを整理する時間を確保したり、ICTの共有機能を活用して一人一人の考えを可視化したりすることで、自分の考えをもって交流に臨めるようにする。また、グループ編制や活動中の役割を工夫することで、全ての子供が自分の考えを伝えたり、友達の考えと比べたりしながら、主体的に話し合いに参加できるようにする。さらに、教師が考えの共通点や相違点に着目できるように「なぜ」「どうして」と問い返すことで、友達との関わりから新たな気づきや疑問を生み出し、多様な視点を生かしながら課題を探究していけるよう支援する。

6 単元構想（全 56 時間 本時 31／56 時）

小単元(時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
灘浦地区の特産物について調べよう(24)	【課題設定】 ・興味・関心をもっていることを基に、調べ学習の課題を決める。			①	発言分析 行動観察
	【情報収集】 ・体験学習や資料、インターネット等から、情報を集める。	①			発言分析 行動観察 ワークシート
	【整理・分析】 ・自分の収集した情報を整理したり、友達の情報と比べて分類したりして、灘浦地区の特産物の特色をつかむ。	②	①	②	発言分析 行動観察 ワークシート
	【まとめ・表現】 ・自分の調べた特産物の特色をプレゼンテーションソフトにまとめる。		②		発言分析 行動観察 プレゼンテーションソフト
灘浦地区のよさを伝えよう(20)	【課題設定】（本時） ・灘浦地区のよさを伝える目的について考え、どのように伝えるか、自分の課題を決める。		①	①	発言分析 行動観察 ワークシート
	【情報収集】 ・灘浦地区のよさや未来への思いについてゲストティーチャーに話を聞いたり、稲刈り、はざかけ体験やみかんの収穫等の作業を行ったりする。	①			発言分析 行動観察 ワークシート
	【整理・分析】 ・灘浦地区のどのようなよさを伝えるのか、情報を整理する。多くの人に知ってもらうための効果的な方法について分析し、具体的な方法を考える。	②	①	②	発言分析 行動観察 ワークシート
	【まとめ・表現】 ・実際に販売活動を通して、灘浦のよさを伝える。活動を通して考えたことをまとめる。		②	③	発言分析 行動観察 プレゼンテーションソフト
灘浦地区の未来について考えよう(12)	【課題設定】 ・これまで自分が調べてきたことや、体験してきたことをどのように伝えるか考える。			①	発言分析 行動観察 プレゼンテーションソフト
	【情報収集】 ・資料、インターネット等から、足りない情報を集める。	①			発言分析 行動観察 ワークシート
	【整理・分析】 ・自分が伝えたい内容に必要な資料を整理する。内容を分かりやすく再構成する。 ・灘浦地区の未来に対する自分の思いを考え、伝えたいメッセージを明確にする。	②	①		発言分析 行動観察 ワークシート
	【まとめ・表現】 ・地域の方への発表会を行い、自分たちが調べたこと、考えたこと、感じたことを自分の言葉で伝える。	①	②	③	発言分析 行動観察 プレゼンテーションソフト

7 本時の学習（第2次 7/20時）

(1) 目標

地域で活躍されている方々の話を振り返り、自分たちの予想との共通点や相違点について話し合いながら、自分たちのこれからの活動内容について考える。

(2) 展開

学習活動（時配）	指導上の留意点 評価（方法） 研究主題解明への方策 ①課題設定 ②学び合い
1 前時までの学習を振り返り、本時の見通しをもつ。 (3) ・長坂の棚田で米作りをされている方やかんきつ研究会の方から聞いた話をみんなで整理しよう。 ・それぞれの思いには、共通していることはあるのかな。 2 地域の方々の話を整理して、分かったことを共有する。 (7) ・地域の方々は、灘浦で穫れたおいしいものを食べてほしいと話していた。 ・おいしいものを食べてもらうことで「灘浦のすばらしさ」を知ってもらいたい。 ・たくさんの人に灘浦地区に来てもらいたいと思っている。 3 整理したことと自分たちの予想を比べて話し合う。 (10) ・ただ「たくさん売ればいい」と考えていると思っていたけれど、「灘浦地区を盛り上げたい」という思いをもっておられることが分かった。 ・跡を継ぐ人が少なく、未来の灘浦地区について心配をしておられた。 ・灘浦地区のために、私たちにも何かできることはないかな。	・これまで調べてきたことは、タブレットや掲示でいつでも確認できるようにする。 ・地域の方々には、「活動を始めたきっかけ」「今、思っていること」「未来の灘浦地区」等について話をしていただけるよう、事前に打合せをする。 ・インタビューの動画は、協働学習ツール内に保存しておき、いつでも視聴できるようにする。 ②前時に個々で整理した内容を友達と確認し合うことで、自分にはなかった視点や情報に気づき、互いの情報を補い合うことができるようにする。 ②整理した内容は全員で分担して板書する。長坂の棚田の方の思いとかんきつ研究会の方の思いで分けて書くことで、比較しやすいようにする。 ①第2次の初めに考えた自分たちの予想を提示しておくことで、自分たちが考える地域の方々の思いと実際の思いを比較することができるようにする。 ・地域の方々の思いを考えることで「灘浦のよさを未来につなげたい」という願いに気付くことができるようにする。
わたしたちにできることはどんなことだろう	
4 灘浦地区のために、自分たちにどんなことができるか考える。 (20) ・灘浦地区のよさを伝えるための活動がしたい。よさを知ること、住みたいと思う人が出てくるかもしれない。 ・灘浦地区のために頑張っている人たちのことも伝えたい。 ・「ひみ番屋街」でみかんを販売するとき、どんなことができるだろう。 ・「ひみ番屋街」での活動以外に何かできないか。 5 本時の学習を振り返る。 (5) ・長坂の棚田で米作りをされている方もかんきつ研究会の方も灘浦地区を盛り上げたいという気持ちで頑張っていることが分かった。 ・たくさんの人に灘浦地区のすばらしさを知ってもらいたいと思った。 ・私たちも灘浦地区を盛り上げる活動をしたい。	②デジタルホワイトボードを活用し、友達の考えをリアルタイムで参考にできるようにすることで、より多くの意見を出せるようにする。 ①やりたいと思ったことの理由も考えるように伝え、目的を意識して考えられるようにする。 ・次時に考えを整理・分析することを伝え、これからの活動の見通しをもつことができるようにする。 ・自分の考えた活動が目的に沿ったものになっているか振り返るように声かけを行う。 〈思考・判断・表現〉 地域で活躍されている方々の話を振り返り、自分たちの予想との共通点や相違点について話し合いながら、これからの活動内容について考えている。 (発言・デジタルホワイトボード)

(3) 授業の視点

地域で活躍されている方々の話を振り返り、自分たちの予想との共通点や相違点について話し合ったことは、これからの活動内容について考えるために有効だったか。